

Q 2 現状で京都らしさを損ねているものは？
= 京都の惜しいところ、課題とは何か？

① 適切なキャパシティを超える状況に対応できていない

- 全体設計の欠如／受入体制の全体設計
 - ・ 場所に応じてここに行かないといけない、ということにより局所的な集中が起こる。それに対する全体設計がないと局所的な混雑や交通システムの麻痺の話になり、京都に行ってもしんどいから行かないでおこう、となる
- 自由と制限のバランス
 - ・ 自由に動くことが旅行の醍醐味。観光客に自由に動くことを意識的に制限してもらうかが重要。ただ禁止するだけでは反発して終わり
 - ・ 自由と制限のバランスは大事だが、それを誰が担うのか。市民だけでなく観光客もきちんと分散して、責任や自由を享受できるように、守るように、片方に偏らない設計が必要
- ウォークラブルになっていない／車の交通量の多さ
 - ・ 京都らしい狭いところに車がキチキチと走っていたり、マスツーリズムの混雑も相まって自転車も乗りにくく、バスも混み、市民として過ごしにくい。京都に来て気持ち良いな、歴史を感じられるなと思う体験を崩している要因
- 車いすの人たちが動きやすい環境になっていない
 - ・ 歴史的な観光資源と車いすとの相性はすごく悪い。車いすの人が回りやすいまちは、子ども連れの方にも優しいまち。バリアフリーの意識が必要
- 人の多さとまちの大きさが見合っていない
 - ・ 観光客の受け入れ方が京都市にとっては一番重要。適切なキャパシティを超えたところでの対応がどれくらいできるかが、動いている人たちが京都に何かを生み出してくれるか、につながる

Q 2 現状で京都らしさを損ねているものは？

= 京都の惜しいところ、課題とは何か？

① 適切なキャパシティを超える状況に対応できていない

○一極集中／マスツーリズム・局地的な混雑

- ・ ダウンタウンは住んでいる側からすると行きたくない。一本道を外れると誰もいないのに、一つのところにうわっと人がいる状況は地元民や住んでいる人からも、また来訪者からみても心地よくない体験

○交通の局所的な集中（渋滞）

- ・ 多くの観光客が来て、バスに乗れなかったり、渋滞が発生したり、調和の問題が生じていて、享受する側の住民に配分する仕組みが必要
- ・ 局地的に混みすぎている。そういうところが京都を辛くさせるポイントになってしまい、疲れると集中してまちの良さを見つけることはできなくなってしまう

○観光客と地元の融和が図れていないこと

- ・ 観光客が増えることによって、住民のくらしの質が低下している。インバウンドの経済的な恩恵を受けているのは一部の事業者等であって、まちの発展には良くない

○観光客と市民の分断

- ・ 観光客は観光客で、という分断は京都らしさを損ねているかもしれない

Q 2 現状で京都らしさを損ねているものは？

= 京都の惜しいところ、課題とは何か？

② 計画づくりに市民の力を活かせていない

○トップダウン型のまちづくり

- ・ 京都で計画を考えるときに、トップダウンという大きな物語が似合わないまち。それに合わせて整理するというよりはボトムアップで、小さな物語を拾い上げていける土壌がこれからの京都には必要。

○誰のための京都デザインか

- ・ 観光客と市民にとって良いことはバーターになっている。主体の主語はいろいろ。観光客のときも、市民のときも、行政マンのときもある。生態系的に捉えないと難しい
- ・ 地元のおばあちゃんが座っていたベンチが、いつの間にかマイクロモビリティの置き場が変わったように、地元の憩いの場が誰かのための場が変わってしまった。誰のためのデザインなのかを見失いがち

○地元住民中心・重視で考える

- ・ 小さいコミュニティや懐の深さの変数を無視するとどんどん東京っぽくなる。地元が目線が大事だと改めて思う
- ・ 海外旅行に行ったが、都会はどこも同じでつまらない。地形や風土などと、どういう人が住んでいるかで、まちが出来上がっていると感じた。今ある自然、用意されていたもの、どういう人が住んでいるかを考えてデザインできると、らしさが出てくる

Q 2 現状で京都らしさを損ねているものは？
= 京都の惜しいところ、課題とは何か？

③ 成長を前提とした社会構造

- その時代に合わせた成長戦略になっていない（量から質、マスからニッチへ）
 - ・ 成長戦略の限界、減少・縮小時代に合わせた戦略が必要
 - ・ 人口減少社会に入っていて、人口を増やすことは非現実的。経済発展も不要ではないか
- 人口減少を前提とした政策がない
 - ・ 人口が減っている中で、移住する人が増えても同じような成長や拡大的な政策の作り方は無理。人口減少に合わせてあるものを活用し、巡らせていく
 - ・ 人口が減った社会に見合ったサイズ感、縮小して何が悪いのかと感じる
- つくりなれ。巡らせ力がない。
 - ・ つくり出すことに意識が強いイメージ。あるものをどう活用・巡らせていくか。成長的な動きが強いイメージだが、空き家をどう活用するかを考えるほうが、人口減少の中でも良いのでは
- 情報過多
 - ・ やろうとしていることが多い。それが面白く、いろんなものが出てくるのはよいが、接続させる人がもっとほしい

Q 2 現状で京都らしさを損ねているものは？

= 京都の惜しいところ、課題とは何か？

④ まちの個性の喪失、画一化

○綿密な計画と効率主義

- ・ まちの中が綿密につくられすぎている。資本が入り、効率性が重視されすぎていて、味が無くなり、のびのびできる余白がなくなっている

○開発

- ・ ゼロから新しく開発して均一化してしまうと、個性、灰汁が消えてしまう

○既視感

- ・ 外資の進出や昔からのブランドがリブランドされたりするが、表面的なものだけが京都の場に合わせたものになっていて、濃いところが無くなって、既視感がある

○街並みが均一になってきている

- ・ 東京のミニマム都市になっているように感じる。京都のまちは便利になったが、魅力が高まったとは言えない
- ・ 都市が均質化しているように感じる。東京やニューヨークなどの世界の大都市とは違う方向性を京都は目指せるし、目指してきた

○派手さ

- ・ 京都の雰囲気や味を損なう意味での派手さ、華やかさは不要

○空き家活用／歴史的建造物や街並みの保存の失敗

- ・ 歴史的価値のある建物が毎月のように更地になり、駐車場になり、マンションになっていることを日常的に目にする。大丈夫かという危機感がある。建物一つの話でなく、街並み全体として考えるべきこと

○昔からあるように外見だけ魅せる・似せる新しいお店

- ・ 新しいお店や物は丁寧さがかけている。無理に京都になろうとしている雑さがある

○本物をまねる

- ・ 真似ることは丁寧さに欠ける。京都になろうとすると雑さ、粗さが見えてきてしまう

Q 2 現状で京都らしさを損ねているものは？

= 京都の惜しいところ、課題とは何か？

⑤ 消費されて蓄積がない

○京都資本カリスペクトか

- ・ 京都で積み重ねてきたものを資本と捉えて営みをしていたり、人々の暮らしがあるかということ。これに対してリスペクトを持っているか。未来に対する行動があるか。それが京都資本を扱えているかということ。そのリスペクトが無くなると、京都らしさが失われる

○“消費”される資本、京都は大衆化してしまった？

- ・ 資本は消費するものではない。例え使ってもその分は戻す、蓄積するという、老舗企業や長寿企業の考え方に近い

⑥ 文化に触れる機会の減少

○古いものに関わる機会の少なさ

- ・ 体験がないとほんとのクリエイティビティは生まれない。京都はそれができる環境。小中高で触れていないと、京都の良いところは胸を張れない。古いものと若い刺激的な世代を結びつけることが大事。文化やこれまで続いてきたくらしに対する解像度がすごく下がっている

○若者（20代）が歴史・文化を体験できていない

- ・ 自身の教室で餅つきをさせるが、20代は一度もしたことがないと言う。0と1は極端に違う。体験できる環境が近くにあるのに知らない

○一步目のハードルの高さ（高くないのに）

- ・ 今の若い人はお行儀が良い。1歩のハードルが高い。なにかの後押しがひとつ必要

Q 2 現状で京都らしさを損ねているものは？
= 京都の惜しいところ、課題とは何か？

⑦ 多様性と個人尊重のバランスの欠如

○ニッチさの減少

- ・ 京都は大衆化したと思う。何か新しいものが生まれる場なのに、消費が生まれているのは、大衆化してしまったから。みんな同じところに行って、同じバスに乗って疲れるというのは、誰にとってもハッピーではない

○言語化されない京都らしさによる疎外感

- ・ 非言語のコミュニケーション、暗黙のルールを知っているかどうかで京都人かどうか判断されているように感じる。京都らしさを守る分にはいいが、外に伝えるときには遮断と見られてしまう

○資本主義の優先

- ・ 観光と地元の暮らしやすさの2つの軸で考えると、インバウンドは京都経済のためにどう発展するのかと考えがちなのではないか
- ・ オーバーツーリズムは、サービス供給と需要の間にギャップが生じている。儲かるのは一部だけで、観光に関係ない人、住んでいる人には、無関係になってしまうのが悩ましい

○個人主義

- ・ 懐の深さ、三方よし、持ちつ持たれつ、お互い様といった関係性が減ってきて、個人が優先されすぎていて、バランスが崩れている

Q 2 現状で京都らしさを損ねているものは？
= 京都の惜しいところ、課題とは何か？

⑧ 閉鎖的に見える、感じるコミュニティ

- 京都だから良いのだという権威主義
 - ・ 「京都だからいい」ということを武器にしすぎない。既存の京都の権威を使っていくと縮小均衡になってしまう
- 意思決定の場の多様性のなさ
 - ・ 意思決定の場や公的なイベントの登壇者も、女性や外国人、障害のある、マイノリティの方々が顔を連ねている印象がまだまだない
- コミュニティ同士をつなぐ機能・人がいない／ハブがない、機能していない
 - ・ まちづくりに関係する中で、面白いことがあちこちで起こっているが、つながっていないので、どこで何が起きているか把握できていない
- よそはよそ、うちのうち
 - ・ 異質なものを受け入れない。自分が関係していること以外への関心が低く、自分がやっていない分野に対してアンテナを張っていないため、取り残されているという感じを歴史的なものに対して思う

⑨ 学びの場がつまらない

- 経済的な価値以外を追求できない／「産学官連携」がビジネスドリブンになってしまっている
 - ・ 大学は独立した組織であるはずだが、研究・学びがビジネスに寄ると京都の面白さがなくなる
- お行儀よすぎる大学
 - ・ 大学がつまらない。学校での政治活動が厳しくなっている。立て看板が撤去されたり。もっと楽しく学べる場になってほしい